

In Focus

サーモウッドの熱伝導性能

サーモウッド高熱乾燥木材の一つの特徴として、高熱乾燥により木材の断熱性が高まる（熱伝導性が低くなる）と言う利点があります。

熱伝導性が低い（熱が伝わり難い）素材は、その素材に触れたときの体感温度がより体温に近いと言うことです。

サーモウッドの使用例からの逸話で、サーモウッドをフローリングに使用した場合、寒い時期、素足でもフローリングが冷たく感じないとか、また反対に例えば、非常に高温になるサウナ内で、ベンチや内装壁の素材にサーモウッドを使用すると、やけどをする心配もなく安心して座れると言われます。（サーモウッドの吸水性が低いという特徴も、汗を吸い難く表面も乾きやすく、サウナや脱衣所で使用する場合の一つのメリットと言って良いでしょう。）

比較試験に使用した樹種：

針葉樹：

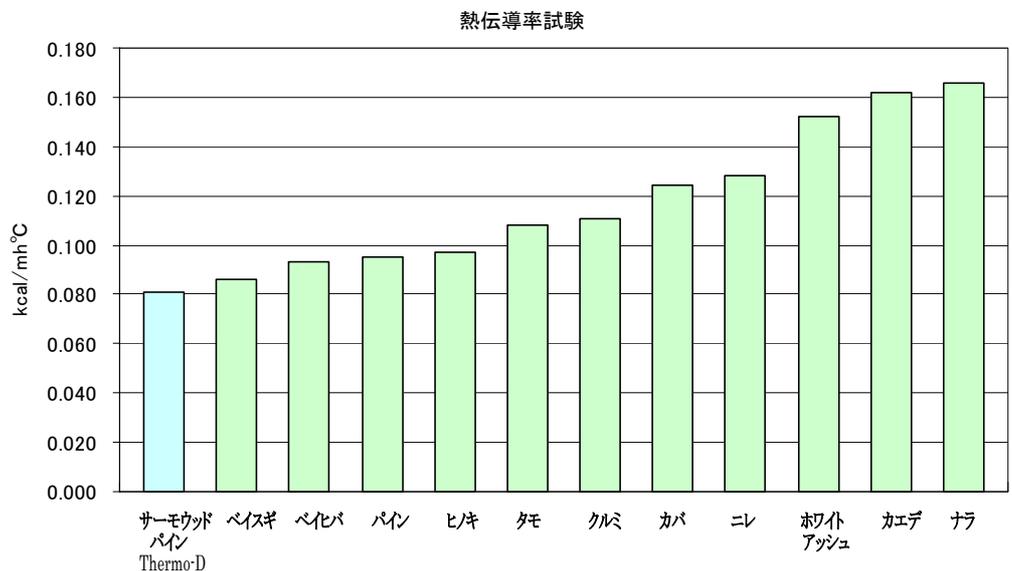
- サーモウッド(パイン: Thermo-D)
- ベイスギ
- ベイヒバ
- パイン
- ヒノキ

広葉樹

- タモ
- クルミ
- カバ
- ニレ
- ホワイト アッシュ
- カエデ
- ナラ

木材の熱伝導性について、サーモウッドと、その他の木材の熱伝導性能を比較した熱伝導率試験を以下に御紹介します。比較試験に用いたサーモウッドは 212℃で高熱乾燥（Thermo-D）されたパイン材で、比較対象のために選んだその他の樹種は、日本国内でフローリングや内装建材に一般的に使用される左記の針葉樹および広葉樹です。

試験結果を表した下のグラフでは、数値が低いほど熱が伝わり難いことを示しています。今回試験に使用した樹種の中では、サーモウッドが最も熱伝導性が低く、また、広葉樹の樹種（タモ、クルミ、カバ、ニレ、ホワイトアッシュ、カエデ、ナラ）は、一様に、針葉樹と比べ、熱が伝わり易いことが解ります。



試験方法： プローブ法： 昭和電工(株)製 ShoThermQTM 迅速熱伝導率計 DII による
 試験機関： 広島県立西部工業技術センター（広島工技第 1892 号・第 1953 号）



Wood Focus Finland©

熱伝導性は、体感温度を左右する幾つか有る要因のひとつで、素材の表面の形状やその他の要因などでも体感温度は左右されますが、サーモウッドの特徴の一つである低い熱伝導性も、色々な素材を適材適所に使用する上で、一つのメリットとして考慮出来るものと思います。